

# Angle アングル



## データ利活用の推進で住みよいまちづくり 市川 博之さん (茶畑団地出身・41歳)

「プログラミングを始めたきっかけは、ゲームソフトを買うよりも自分で作った方が安いと思ったからです」と話すのはひげが特徴的な、一般社団法人コード・フォー・ジャパンに勤めている市川さん。小学校高学年の頃からプログラミングを組み始め、裾野東中では電腦部に所属。教育用のプログラミン

グを作成するコンテストで日本一になりました。高校・大学を卒業後はカーナビを作成する会社やIT・経営コンサルタント会社に就き、データ利活用の知識を身に付けました。

市川さんは、培ってきた知識や経験を役立てたいという思いから、現在は全国の自治体や企業へデータ利活用のアドバイスを行っています。「フィールドがないと、どんな良いアイデアもアイデアのまま終わってしまいます。一緒に創り、実現することが面白いところです」と市川さん。

ICTを使い、人手不足やそれによる産業衰退が深刻になっている分野をいかに残していくか、さらに活性化できるかを考えるところにやりがいを感じているそうです。「何もしないと衰退するけれど、少し工夫することで勢いを取り戻すこともあります。常に新鮮な気持ちで仕事に向き合い、新たなアプローチの仕方を考えています」と語ります。

今後について聞くと「裾野市がデータ利活用の分野で他の自治体のお手本になれるよう、さらに推進していきたいと思います。新しいことに積極的に取り組んでいきたいです」と笑顔で話してくれました。



## 市民文化センターNAVI

2月の休館日

4日(月)・18日(月)

☎ 993-9300

### 森高千里「この街」TOUR 2019

1998年以來の全国ツアー!! 皆さんぜひ遊びに来てください。

**と き** / 4月27日(土) 17時30分～ ※開場▶17時

**と ころ** / 大ホール

**料 金** / 全席指定 8,640円 (税込)

※3歳以下で膝上鑑賞の場合1人のみ無料

**発 売** / 市民先行▶2月2日(土)、一般▶2月9日(土)

**チケット購入** / 各発売初日の受付▶電話: 10時～

窓口: 13時～

※チケットは

1人8枚まで



## 富士の彩る 裾野を

富士山資料館

☎ 998-1325



### 江戸時代の飢饉

江戸時代、享保・天明・天保の三大飢饉がありました。享保の飢饉は虫害と冷害が原因で、天明の飢饉は浅間山の噴火による降灰と冷害が原因でした。天明の飢饉では死人の肉を食べたという記録も見えます。このため飢饉に備えて穀物を蓄えるようになり、「覚」は囲米(粃)を受け取ったという証文です。

天保の飢饉について、須山村名主五郎治が詳細な日記を残しています。主な内容は、「1836年4月から雨が続き粟・稗が大水で流され、麦も実入りの時の雨で駄目になりました。8月には激しい潮風のため、晩稲・大根が被害を受けました。甲州では騒動が発生し、周辺の大名家から軍勢が出ました。須山村では37軒110人が飢え人となりました。11月に女子の捨て子があり、世話をしましたが死んでしまいました」です。

覚

天保年中大凶歳之手記



(須山区有文書)



(渡邊家文書)

